第５回上郷東地区まちの再生・活性化委員会　会議録	
日時	平成 30 年 12 月２日（日）14:00～16：00
開催場所	上郷地区センター　中会議室
出席者	委員：芦川委員、大原委員、吉田(敏)委員、射場委員、吉田（正）委員、本田委員、山上氏（角田委員の代理）、鈴木委員、難波委員、川崎委員、岩澤委員、井川委員、荒委員、河野委員、田辺委員、和田委員、吉井委員、小林委員、見上委員　（19 名） ＜事務局＞ 栄区区政推進課（５名） 政策局政策課（２名） 都市整備局地域まちづくり課（１名） 横浜プランナーズネットワーク（２名） ＜傍聴者＞ ７名
欠席者	豊田（宗）委員、内田（克）委員、杉山委員、平川委員、高橋（勝）委員、三宅委員、安本委員、高橋（理）委員、森委員、豊田（智）委員、斎藤委員、福島委員、森田委員　（13 名）
説明・報告事項	１．分科会の「ご意見・ご感想アンケート」の報告について ２．区長への助言について ３．平成 31 年度以降の進め方について
協議事項 意見交換	**１．分科会の「ご意見・ご感想アンケート」の報告について** ・アンケートに「もう少し広報していただければ」とあったが、まちづくりニュースでお知らせしているということか。 ⇒基本的にはホームページとまちづくりニュースで広報しているが、９月 30 日の分科会は傍聴可能とした。引き続き工夫していきたい。 **２．区長への助言について** （本文について） ・地域交通分科会では、まず上郷公田線にバス路線の新設を要望していこうという話になった。昨年度末にバスルート案は５つあったが、今年度は案を絞り込むことになっていた。地域の高齢化の進展に伴い日常の買い物や公共施設への移動の便利性、通勤・通学時の速達性を重視し、地区の状況を踏まえ２案に絞った。大船・戸塚へのルート延伸などの将来の可能性の芽を摘んでしまわないように、助言内容に「今後のまちづくりを視野に入れて、供用後も幅広く」を追加した。 ・助言は 20 年、30 年先を見越した未来に向けた取組だと思うので、追加したい。 ⇒「20 年・30 年先や未来」のキーワードを入れて修正する。

	・「ご意見・ご感想アンケート」で「経団連傘下企業という言葉が出てきて少し驚きました」とあるが、将来に向けて何か恣意的なとらえ方をされると不本意なので、民間企業に修正した方がいいと思う。 ⇒経団連から企業提案をいただき、一部の会員企業と意見交換を実施した経緯はあるが、誤解を招くようであれば、相違ない範囲で表現を工夫したい。 （資料１について） ・ホームページで活用案がオープンになると、役所がすべての内容の実現化に向けて努力すると住民は思ってしまうことが心配だ。 ⇒区の認識としては、すべてできるとは考えていない。この中から企業連携などでやれる部分をやっていく。 ・助言に添付する資料は、あくまでも参考資料で、行政がどのような実施案を地元に問いかけてくるか期待したい。 （資料２について） ・地域交通分科会で各ルートを表す名称を事務局にお願いしたが、見ただけで分かるのでこれで良い。 ・いきなり各論になっているので、バス事業者に路線を増やせと無理難題を言っていないことを理解してもらうためにも、考え方を記載した方がいい。 ・考え方を追加した資料を分科会のメンバーに事前に見せてほしい。 ・資料１は、旧庄戸中学校後利用分科会とこども・子育て分科会の絡みが分かるが、地域交通に関しても触れた方がいいのではないか。 ・資料１に地域交通の課題を盛り込むと複雑になってしまう。 ・２つの重要な課題について、検討を進めてきたのでこのままでよいと思う。見せ方として、資料２もＡ３にして体裁を整えた方が分かりやすい。 ⇒ルート案の考え方を盛り込み、体裁を整えて、委員長とリーダーに確認していただき、年内に地域交通分科会のメンバーに送れるようにしたい。 （最終稿について） ・次回の委員会で助言の最終稿をみんなで確認することになるが、最終稿を事前に各委員に送り、委員会に臨む形にしたい。 ・最終稿の承認方法や欠席者の委任状などのルールを決めておいた方がいい。 ・次回の委員会は「最終稿は確定でよろしいか」の承認の場になればいい。 ⇒１月７日の週に開催通知と最終稿の案を委員に送りたい。

	３．平成 31 年度以降の進め方について ・年度末に区長に提出する助言はあくまでも助言であるが、今後上郷東連合町会が母体となって「まちの再生・活性化」を担当する総務部会を新設し、区との繋がりを継続していきたい。メンバー構成は、連合町会長が主となり、総務部会長や庄戸３～５丁目を含め地域の熱心な方々を考えている。 ・助言後も、実現に向けて区役所と一緒に考えていかないといけない。 ・29 年度からは少しでも具体化できるよう課題を絞って議論してきたが、地区の課題は引き続き考えていかないといけない。まちづくりに関する検討・協議・実施については、地元の人たちが中心にやらないといけない。来年度以降、連合町会の総務部会にシフトし、区との関わりを継続していくので、まちづくりはこれで打ち切りということではない。 ・旧庄戸中学校後利用は、市が活用する部分と民間が活用する部分を検討しているが、先にめどがついた方から活用するのか。 ⇒どちらが先ということでなく、まずは旧庄戸中学校全体の活用の方向づけをする必要がある。その後、具体的な作業を進めることとなる。 ＜次回＞ ・平成 31 年 1 月 27 日（日）14 時からの予定、場所は未定。
資料	・次第 ・【資料１】分科会の「ご意見・ご感想アンケート」の報告について ・【資料２】上郷東地区のまちづくりに向けた助言